

シラバス参照

科目名	芸術・文化遺産政策
配当年次	3年次
開講期間	春学期
単位数	2
担当教員	奈良澤 由美(ナラサワ ユミ)
期間・曜日・時限・教室	春学期 水曜日 3時限 13－307

※	
授業の目的・目標	(1)授業の概要 古代からの現代までの文化財の破壊、発見、保護について学びます。とくにフランスを中心とした文化財保護政策の誕生と発展、そして現状と課題について考えていきます。 (2)授業の目的 「パトリモアン(文化遺産)」という概念の成立について歴史的に理解し、その意義と問題点について再考し、現在の世界および日本の文化財保護の課題について自ら考えることができるような力を養うことを目的とします。 (3)修得できる力 文化財保護の歴史的・地域的背景を理解し、文化財保護について俯瞰的視座を得る(知識・理解)。 現存する多様な文化財をどのように活用することができるか、興味と問題意識を持つ(態度・志向性) (4)授業の到達目標 本学部のディプロマ・ポリシーにおける「課題発見・解決のために必要となる幅広い分野の学問知識」を得ること、そして課題を発見・解決する能力を得るための「幅広い分野に対する知的好奇心、および既成概念にとらわれない批判的、論理的思考力」を養うことが目標です。
準備学習等の指示	文化史の知識が授業の理解には必要であるため、次回の授業の地域の時代背景について、授業時に推薦する参考書に目を通しておくことが望まれます。 授業で扱う世界遺産については、ユネスコ世界遺産の公式サイト https://whc.unesco.org/en/list/ にアクセスして自分で調べてみてください。
講義スケジュール	1 イントロダクション 本講義のねらいと概要および進め方について理解する。 2 文化財の破壊 文化財の破壊とは何か。宗教や権力交代、戦争や都市開発など、過去に起きた様々な破壊について学びながら、わたしたちの身近にある文化財の破壊について関心を持ち、文化財保護についての問題意識を養う。 3 世界の七不思議1 文化財という概念の始まりともいえる「世界の七不思議」とは何であるのか、その歴史と概要を理解する。「クフ王のピラミッド」「バビロンの空中庭園」 4 世界の七不思議2 「オリュンピアのゼウス像」、「ハリカルナッソスのマウソロス墓廟」、「エフェソスのアルテミス神殿」 「ロドス島の巨像」、「アレキサンドリアの灯台」 5 文化財の「発見」 啓蒙思想と歴史主義を背景とした過去の文化の再発見の経緯を理解する。 6 保護の歴史1:「パトリモアン(文化遺産)」の概念の確立 啓蒙主義からフランス革命を経て、文化遺産の概念の誕生までについての歴史的背景を理解する。 7 保護の歴史2:文化財保護政策の発展 19～20世紀のフランスを中心とした文化財保護のための法整備と政策の展開を理解する。 8 ユネスコと世界遺産1 ユネスコの世界遺産の成立と意義を理解する。 9 ユネスコと世界遺産2 世界遺産の分布、危機遺産、負の遺産について、それぞれの課題を考える力を養う。 10 ミュージアム1:近代美術館の成立まで 中世～近世の「コレクション」から、ルーブル美術館、大英博物館などの現代の代表的なミュージアムの成立までの流れを理解し、ミュージアムの役割や意義についての問題意識を養う。 11 ミュージアム2:世界のミュージアム 19世紀以降の多様な美術館の成立と、メトロポリタン博物館(アメリカ)、バードー博物館(チュニジア)、日本の西洋美術館、国立博物館などのコレクションを学び、課題発見の力を身につける 12. フランスの地域ごとの文化政策1:マルセイユ フランスの各地域の文化政策の現在と課題を理解する。 13. フランスの地域ごとの文化政策2:アルル、アヴィニオン、エクス フランスの各地域の文化政策の現在と課題を理解する。
教科書	特にありません。
参考文献	適宜紹介します。
授業の方法	授業はパワーポイントなどの視覚教材を用いながら、講義形式を基本として行います。各授業ごとに必要な資料を配布します。 各授業において、理解したこと・興味を持ったこと・疑問に思ったことを簡単に記述し提出してもらいます。次の授業において、疑問・質問などについて答えていきます。
成績評価方法	授業への取り組み姿勢とリアクションペーパー(50%)、期末試験(50%)により評価します。

オフィスアワー	授業時に指示します。
居室	4号館4階405号室
ホームページ	
その他特記事項	
添付ファイル	